

未だ終息が見えない新型コロナウイルス感染症。滋賀において、第3波の入り口と言われる状況となっています。感染症対策と経済対策の両立が模索される中、高齢者や持病のある方など、重症化リスクの高い方をいかに守り抜くのが大きなポイントとなると考えています。県議会におけるコロナ対策を含む特別委員会の副委員長としても、しっかりと頑張ってまいります。どうぞよろしくお願ひ致します。

Topics

- 9月定例会議報告
- 6月定例会議報告
- 委員会等活動報告
- 決算特別委員会報告
- 新型コロナウイルス感染症対策

小川 やすえ

滋賀県議会議員

プロフィール

- 徳島県鳴門市出身 ●岡山大学文学部卒業
- 1996年滋賀へ ●1997年子育てや女性の
一歩を応援する「びいめ〜の企画室」創設。情
報紙発行、コミュニティカフェ運営等に携わる
- 2011年〜2014年守山市議会議員
- 2019年〜滋賀県議会議員

守山市総合防災訓練にて



質問の様子は滋賀県議会ホームページの録画でもご覧頂けます。



https://www.shigaken-gikai.jp/

9月定例会議一般質問

違法なサービスが疑われる個室マッサージ店への対応

昨年、性的サービスを行う違法マッサージ店が滋賀として過去最多摘発されたが、すぐに新たな店舗がオープンする「いたちっこ」になっている、というメディア報道があった。「他府県での取り締まりが強化され、滋賀に流れて来ているのでは」とも書かれており、この7月には、閑静な住宅地の真ん中に違法営業が疑われる個室マッサージ店がいきなりオープンした例も報告され、地域からは住環境の悪化を不安視する声があがっている。コロナの影響で都会での経営が苦しくなり、SNSの普及でどこでも集客が可能になったという背景もあり、家賃が安い滋賀に移って来ているという例も実際にあると聞く。

このような事態に対して、滋賀県として毅然とした態度で臨むべきではないかという観点で質問をさせていただきました。

●滋賀県における性的サービスを行う個室マッサージ店に関する規制は
警察本部長 ▼ いわゆる、性的サービスを行う個室マッサージ店については、「滋賀県風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行条例」において、県内全域で営業が禁止されている。

●違法個室マッサージ店の摘発状況は
警察本部長 ▼ 平成29年は2件、平成30年は0件、令和元年は6件、本年は本日現在で1件となっている※現在は2件

違法性が証明されれば風営法の禁止地域営業違反で取り締まれるが、捜査には時間もかかり、不起訴の場合もあり、起訴されても刑が軽く、またすぐに新規にオープンすると言ったことが起こっているのにも現実。行政として何かもつとできることはないのか。

●マッサージ店舗の都市計画における用途規制はどのようになっているか。
土木交通部長 ▼ 住宅を改修してマッサージ店に類する店舗とする際の用途規制は、用途地域の7%を占める「第一種低層住居専用地域」内のみであり、それ以外の用途地域内では規模、階数等による制限はあるものの改修は可能。

つまり、ほとんどの住宅地で開業が可能で、今回の例のように、ある日突然、性的サービスの提供が疑われるような個室マッサージ店が隣にできてもおかしくないということ。誰に取っても他人事ではないということですが。

●マッサージ店及びそれに類する店舗を開業するには、どのような資格や届出が必要か。
健康医療福祉部長 ▼ 医師以外の者で、あん摩マッサージ若しくは指圧を業としようとする者は、厚生労働大臣からあん摩マッサージ指圧師免許を受けなければならず、また、施術所の開設後十日以内に所在地を管轄する保健所に届出が必要となり、令和2年9月1日現在、あん摩マッサージ指圧を行う施術所は、県内で721件ある。

また「類する店舗」いわゆる「エステ」や「リラクゼーション」等は、法律に該当しないものであり、保健所への届出は必要なく、店舗数などの現状は把握できていない。

●マッサージ業に類する、人のカラダに直接触れて施術するこれらの分野に、なんの届出も必要ではなく、行政として実態把握もできないのはおかしいのではないか。
警察本部長 ▼ 「風俗と間違えられて困っている」という声も聞かれました。エステやリラクゼーションは、女性の起業としても人気の職種です。ほとんどの店舗は、このコロナ禍の中大変な思いをしながら、感染防止対策にも一生懸命取り組み、頑張っておられます。真面目に営業されている方たちの負担にならない程度という前提で、なんらかの登録制などができないものか。引き続き可能性を探ってまいります。

か。まさに、法の隙き間と言え、今回取り上げた違法性が疑われる個室マッサージ店も、「リラクゼーション」「メンズエステ」などをうたって、その法の隙き間を利用して成り立っている。何らかの届出を義務づける必要がコロナ対策の観点からもあるのではないか。

健康医療福祉部長 ▼ 現在、規制されていないいわゆる「エステ」や「リラクゼーション」等については、新たに法律や条例で届出を義務付けるには、人の健康に害を及ぼすおそれがあるなど、規制を行うだけの合理的な理由が必要と考えられる。

今回、この質問に対してこたえられる部局が現状では無いということで、健康医療福祉部に答えていただいた。

国では「縦割り110番」がはじまり、また滋賀県でも「行政経営提案箱」という試みがスタートした。「実情にあわずつらっている規制改革」一県の縦割りの改善等、広く県民からの提案を募集するということだ。

法の整備が必要なら、ぜひ国に訴えて下さい。また法を補完する条例が可能なら、県民生活の課題解決という目標を真ん中において、ぜひとも部局横断的に検討して頂きたい。

●最後に今後の取組強化策について伺う。
警察本部長 ▼ 引き続き、内偵捜査、サイバーパトロール、県民の皆様からの情報、その他あらゆる警察活動において把握した情報等により実態把握に努め、違反容疑があった場合には、速やかに事件化して、県民の皆様の不安を解消できるよう努力していく。

サロンを運営している方からは、「風俗と間違えられて困っている」という声も聞かれました。エステやリラクゼーションは、女性の起業としても人気の職種です。ほとんどの店舗は、このコロナ禍の中大変な思いをしながら、感染防止対策にも一生懸命取り組み、頑張っておられます。真面目に営業されている方たちの負担にならない程度という前提で、なんらかの登録制などができないものか。引き続き可能性を探ってまいります。

滋賀の動物愛護政策の現状一問一答

●動物保護管理センターへの犬猫の収容数、譲渡数、致死処分数のこの5年間の推移は



湖南市にある県動物保護管理センター

令和元年度の犬の収容数は298頭、譲渡数は109頭、致死処分数は98頭。猫の収容数は795頭、譲渡数は162頭、致死処分数は628頭、うち472頭が子猫。推移は、平成27年度からの5年間で、犬の収容数は281頭減少、致死処分数は96頭減少、猫の収容数は789頭減少、致死処分数は787頭減少。子猫の致死処分数は702頭の減少。

●収容された保護犬や保護猫の譲渡会拡充の状況は

動物保護管理センター以外での譲渡会は、多くの方の目に触れ、譲渡の機会が増えるという点で有効な方法である。イベントでの出張譲渡前講習会や講習会も開催していきたい。

●動物保護管理センターにも様々な方に来てもらえるよう、動物愛護推進員の知恵も借りて工夫すべきでは

どのような取組ができるのか考えていきたい

●譲渡先募集サイト「わんにゃん掲示板」の利用状況は

令和元年度は犬が11頭、猫が57頭掲載され、うち約半数について譲渡が成立したと報告を受けている。

●ふるさと納税に動物愛護が追加されたが、申し込み状況は

今年4月から滋賀応援寄付に「すべての犬と猫の幸せを願って」というメニューとして追加した。これまでに10件、333万円のご寄附をいただいた。心より感謝をする。適正飼養の普及啓発、地域猫活動の支援、動物保護管理センターの飼養環境の改善等に活用していきたい。

●ミルクボランティア制度の進捗は

2月定例会議でも指摘があり、今年度、動物愛護推進員の協力で、生後3週齢未満の哺乳期の子猫の飼育・譲渡を試行的に実施しており、これまで2人に16頭を譲渡した。「体調不良時の医療費の負担が大きい」「室温管理が必要となる」などの課題も聞あり、さらに検討を進めていきたい。

●「地域猫活動」の状況は

平成30年度から「飼い主のいない猫対策にかかる活動補助金」を設け、地域猫活動を支援しており、補助金でまかないきれない不妊去勢手術については、動物保護管理センターで手術を行っている。令和元年度の補助実績は13件で、補助金対象の手術が43頭、動物保護管理センターでの手術が48頭。大津市では動物愛護センターでは98頭の手術を実施。

●県内における動物殺傷事件の発生状況とその際の対応は

法律上の愛護動物の殺傷事案につきましては、昨年中は3件、本年は9/28現在で11件(猫10件(彦根署5、東近江署2、大津署1、守山署1、甲賀署1)うさぎ1件(彦根署1))となっている。その中には、今年の4月検挙した甲賀警察署管内におけるクロスボウを使用した猫への傷害事件が含まれている。発生時の対応には、警察が届出を受けた場合、獣医師による鑑定に付すなどし、それらの危害が人為的なものとの結果が得られれば、被疑者の特定等、事案解明のために、現場付近での聞き込みや防犯カメラの確認等の捜査で早期事件化に努めるほか、同種事案の続発や手口がエスカレートするのを防ぐために、重点的なパトロールや情報提供を呼びかける広報活動を実施をしている。

動物福祉政策のさらなる推進について

この6月1日に、いよいよ改正動物愛護法が一部施行され、知事の権限強化や多頭飼育崩壊を防ぐための繁殖制限の義務化、動物殺傷罪等の厳罰化等が進められることとなった。改めて、人も動物も幸せになるための施策の更なる推進を目指して質問しました。

15すべての犬と猫の幸せを願って



「滋賀応援寄付(ふるさと納税)」にぜひご協力下さい!



※ミルクボランティア…保護された離乳前の子猫に、ミルクを与えて育てるボランティア

※地域猫…野良猫に不妊去勢手術を実施したうえで、エサ・トイレの管理を行い、生活環境の保全を図る取組



多頭飼育崩壊への早期対応を!

●県内の多頭飼育崩壊の状況と県の対応は

健康医療福祉部長▼多頭飼育にかかる相談件数は、昨年度22件で、うち21件は猫に関して。最も飼育頭数が多かったのは30頭。相談者は、約半数は飼育者本人で、親族や近隣住民、公的機関からもあった。相談があった場合に、飼育頭数を減らすために、「わんにゃん掲示板」をご案内する、あるいはやむを得ない場合は、所有権を放棄していただき、動物保護管理センターで引き取るといった手立ても講じている。

●未然防止策である不妊・去勢手術に動物保護管理センターがもっと関わるべきではないか

健康医療福祉部長▼「地域猫活動」の飼い主不在の猫に対しては、地域の生活環境保全の観点から、センターも手術を行っている。一方で、飼育されている犬や猫については、飼育者の自己責任で手術等を行うというのが原則。

●人間の福祉の側からの依頼といったルールを設けることで、社会全体の福祉向上の観点から県の関与ができるのでは

ただ、多頭飼育崩壊となったケースの飼育者の場合、社会からの孤立あるいは認知症、経済的困窮などの悩みを抱えておられる場合も多いと考えられ、自己責任による解決というのにも限界がある。具体的にはどう県が手術等に関与していくのか、これから考えていく。

健康医療福祉部長▼動物保護管理センター、地域包括支援センター、動物愛護団体、民生委員等様々な関係者による連携が必要。それぞれが果たすべき役割やルールを話し合いその中でセンターの手術等の実施についても考えていく。

●人間福祉と動物福祉の連携の更なる推進に向けて

健康医療福祉部長▼今年度末に国において、社会福祉施策と連携した多頭飼育対策に対するガイドラインが策定されることも見据え、人間福祉と動物福祉の連携のための取組を、県としてもさらに推進していく。

●知事の掲げた政策が着実に進展してきたことについて、また更なる推進に向けて

知事▼県の総合防災訓練においても家族の一員である動物と共に避難してきた際のあり方について、もっと現実として対策を検討しよう。と、現場で指示を出した。命あるものへの思い、すべての生き物に対する思いをしっかり持って、多頭飼育崩壊などの新たな課題にも対応しながら、関係する方々とさらに連携・協力しながら、今後とも一層致死処分数ゼロに向けて取組を推進していく。

9月定例会議

(9月15日~10月9日)

新型コロナウイルス感染症対応経費や7月豪雨に伴う災害復旧工事、草津市立プール整備への支援の経費など641億円余、新型コロナウイルス感染症対応経費のうち生活福祉資金貸付金の事業期間の延長、病床確保に係る補助基準額の引き上げに伴う経費や診療所の医師等が感染して休業することとなった場合の支援制度の経費など89億円余、あわせて731億円余の補正予算が上程され、原案通り可決されました。

滋賀県総合防災訓練

9月20日、東近江布引体育館を主会場に、令和2年度滋賀県総合防災訓練が行われ、危機管理を所管事項に含む特別委員会の副委員長として参加しました。



「避難所環境改善訓練」では、30分で足らずで体育館中にパーテーションや仮設ベッドなどが配置されてびっくり!



段ボールベッド、想像より大きくて寝やすそうでした。



新型コロナ感染者が出たとの想定訓練など、リアリティある設定に緊張感が漂いました。



6月定例会議一般質問

より効果的で効率的な
広報について

あらゆるものを根底からくつがえすような多大な影響を社会全体に与え続けている新型コロナウィルス感染症。そのような中、これまでの反省や検証も踏まえて、より効果的に、よりタイムリーな情報発信、広報戦略が必要だと言う観点で質問しました。

●コロナで県ホームページの閲覧数は飛躍的に伸びたが、一段落したあとは急速に下がってきており、「新しい生活様式」や「コロナ差別等 인권問題」など、県として発信したいことを届けるには、紙媒体との連携が必要である。県政広報誌「滋賀プラスワン」は現在隔月発行だがタイムリーさに欠ける。例えば明石市のようなタブロイド版にすれば、内容はほぼ変えずに、企画・印刷・折り込み料あわせて1回あたり289万円の縮減が可能となり、新聞折込が別途可能となる。検討してはどうか。

知事公室長▼タブロイド版広報誌は20県で実施されており、一定の経費の縮減も見込める。今年度は設置する広報検討の場で議論し検討していく。

●発行頻度の高い市町広報誌との連携もより強めるべきではないか。
知事公室長▼市町の広報との連携は大変重要。特に緊急事態における情報発信につきまして、市町の広報部門と意見交換を行い、連携を強化していく。



犯罪の未然防止と被害者支援に

性犯罪の未然防止と
被害者支援について

性暴力撲滅を訴えるフラワーデモや、性被害を告発する「#MeToo」運動の広がりに世論を受け、国性犯罪の厳罰化の検討スタートや、ワンストップ支援センターの拡充など性犯罪と性暴力の対策強化の予算化といった国の動きが相次いだ。滋賀県ではこの5月、元小学校長が部下への強制わいせつ容疑で逮捕されると言う衝撃的な事件が起こった。検察において不起訴となったが、悩んだ末思い切った声をあげた被害者の勇気を無駄にしないためにも、性犯罪・性暴力対策を一步でも進めたいとの思いで質問しました。

●昨年の滋賀県の強制わいせつ認知件数は58件。これは全国17位、人口あたり換算で全国で10位であり、報道されないが悪質なレイプ事件も発生している。「滋賀は安全」という思い込み、安全性バイアスを払拭し未然防止をはかるべき。

警察本部長▼被害防止対策は、被害者の心情やプライバシーにも配慮しつつ、タイムリーな情報発信を行うことが重要。県警ホームページや地域交番が必要に応じて発信している。「なごみ通信」もより広く活用していきたい。

●増え続ける相談対応のために、性暴力被害者総合ケアワンストップびわ湖SATOCOの女性の専門看護師であるSANEの処遇改善と育成が必要では。



SATOCO ステッカー

総合企画部長▼今年度、SANEセインの待機手当の増額と事務補助員を雇用する経費を新たに予算措置をした。拠点病院の看護師などに、「特定非営利活動法人女性の安全と健康のための支援教育センター」の実施する養成講座の受講を促し、育成に取り組んでいる。負担軽減のために、休日や夜間の相談対応を行う支援センターを国で設置するように要望した。

決算特別委員会

10月19日より5日間にわたって開催された決算特別委員会、歳出ベースで5390億円余の令和元年度決算を採択し、終了しました。

総括質疑では、私たちの会派からは富波議員が登壇し、基本構想の評価など14点を問わせていただきました。うち、「災害対策としての地籍調査の推進」「拠点」としての「ここ滋賀」の役割、そして、「予算現額の1/3にあたる301億円が翌年度繰越となった土木交通費の事業執行体

制」の項を書かせていただき、R3年度予算編成に向けた提言をさせていただきました。

次年度はウィズコロナ・ポストコロナの時代に対応する、大きな変革を余儀なくされる予算編成となってきます。保健所の大幅な削減等行き過ぎた行革やスリム化の弊害が今回のコロナ禍で顕著になった点なども見据え、限られた予算とマンパワーをどこに投入するか、しっかりと主張して行きたいと考えています。



教育・文化スポーツ常任委員会



県立高校のあり方検討や、教育問題、「美の滋賀」の発信、スポーツ・文化振興等の所管事項を審議しています。「教員のセクハラ」「高校の不登校」等、積極的に発言しています。



令和3年6月再開館を目指して改修工事中の近代美術館を視察。



県内調査で国際パカロレアディプロマプログラムが今年度よりスタートした虎姫高校と、保存修理が完了した竹生島の国宝宝蔵寺&平成30年7月豪雨災害の対応状況を調査しました。



行財政・新型コロナウイルス感染症等危機管理対策特別委員会



副委員長として、コロナ対策を中心に審議しています。医療・経済に留まらず、生活困窮、コロナ差別など人権問題、広報課題等を部局横断的に調査研究を進め、危機管理の観点からWithコロナ時代に向けた政策提言を目指しています。



PCR検査を担う県立衛生科学センター。

滋賀県労福協さんの「助け合い・支えあいプロジェクト」で、児童福祉施設に提供するマスクを募集させていただきました。

ご協力ありがとうございました！



琵琶湖真珠の核入れ体験



以前一般質問もさせていただいた琵琶湖の真珠。守山でスタートしたオーナー制度に応募して、親子連れや東京から参加された方と一緒に、玉津小津漁協さんで行われた核入れ体験に参加しました。



3つの池蝶貝に計12個の核を入れました。3年後が楽しみです!



琵琶湖で獲れた鯉とふなのお味噌汁をいただきました!



デモンストレーションで池蝶貝を開くと、中から形も色もとりどりの真珠たちが。



屋形船で赤野井湾に出て、真珠棚や消波堤、フナ・モロコの産卵繁殖場を見学



びわこ湖湖底ごみ回収大作戦



11月1日、赤野井湾と木浜漁港で開催された湖底ゴミ回収活動に参加しました。了解上あわせて300人をこえる方が集結。私は湖底から引き上げたゴミを洗浄・分別する部隊に配属され、胴長部隊が湖底から回収したゴミをつんだ漁船が次々とやってきてはクレーンで降ろす機動力にも感心しながら、赤十字奉仕団のみなさんやインドネシアからの技能実習生のみなさんなどなど、たくさんのボランティアさんたちと一緒に作業をさせていただきました。回収されたゴミは計313キロ。以前は湾内を覆い尽くしていた「オオバナミズキンバイ」はかなり減った一方、ビニール袋や農業系の



ゴミが多数を占め、改めて生活の中でのプラごみ削減に向けて、一人ひとりができることをやっていかななくてはと実感しました。みなさま、お疲れ様でした!!

琵琶湖博物館リニューアル!



10月8日、グランドオープンに先駆けた内覧会に参加しました。目玉展示の「ツダンスキーゾウ」の半身半骨標本は迫力満点。子どもも楽しめる工夫もいっぱい。ぜひ家族でお出かけ下さい。※現在入館には事前予約が必要です。



レストランの琵琶湖カレー

もりやま地域共生大会

11月15日、市民ホールで開催された令和2年度もりやま地域共生大会で県議を代表してご挨拶をさせていただきました。コロナ禍の中も大変なご苦労いただきながら、私たちの暮らしに寄り添い支えていただいている福祉の現場のみなさまには、頭の下がる思いです。市長表彰、社協会長表彰、川柳と写真の「ほっと♡ホット福祉大賞」を受けられたみなさま、本当におめでとうございます!



発熱等新型コロナが疑われる場合の受診方法・まず電話を!!

発熱などの症状がある場合の相談・受診について

